

教科・科目		教科書
言語文化		高等学校 新編言語文化 (第一学習社)
学年	単位数	使用教材
1年(文理・基礎)	2	新編言語文化 学習課題集 (第一学習社)
科目の概要と 目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>	

学期	学習内容(単元等)	到達目標
I	島の少年－船	・描写に表れた登場人物の心情をそれぞれの視点に立って読み解き、少年を中心に置いた小説の展開を捉える。
	よろこびの歌	・「私」と周囲との意識のずれが何から生じているのかを捉えながら、「私」の心情の動きを読み取る。
	道程	・近代詩の鑑賞のしかたを理解し、作品に示された作者の思いを読み取る。
	小景異情	・文語で書かれた詩のリズムや表記の特徴を理解し、作品にこめられた作者の思いを読み取る。
	I was born	・散文詩に親しみ、「I was born」という言葉がどのようなイメージで捉えられているかを読み取る。
	鳩と蟻のこと 古文を読むために1	・話の内容を口語訳で押さえながら、古文特有の仮名遣いと言葉に慣れる。 ・歴史的仮名遣いについて、文語のきまりを理解する。
	一休ばなし 古文を読むために2	・話の展開と内容を押さえながら、古文特有の仮名遣いと言葉に慣れる。
	児のそら寝 古文を読むために3	・現代に通じる人間のありようを味わいながら、古文の世界への親しみを深める
	なよ竹のかぐや姫	・作り物語という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。

学期	学習内容（単元等）	到達目標
2	羅生門	・下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取る。
	大切な言葉	・我が国の伝統文化の一つである短歌の鑑賞のしかたを理解し、近代を代表する歌人の作品を味わう。
	手毬唄	・我が国の伝統文化の一つである俳句の鑑賞のしかたを理解し、近代を代表する俳人の作品を味わう。
	伊勢物語 古文を読むために4	・和歌を含む物語の読み取りを通して、古文への興味・関心を広げる。
	方丈記 〔歴史の窓〕	・当時の世相を反映した文章を読んで、古文に表れたものの見方・考え方の一端に触れる。
	漢文の学習	・我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典としての漢文を読むことの意義を知る。
	訓読に親しむ 漢文を読むために	・故事成語や格言に多く触れることにより、語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・訓読の決まりを理解する。
	五十歩百歩 矛盾 狐借虎威	・漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを知る。
3	よだかの星	・作品に含まれる寓意を理解し、主人公の置かれた状況から生じる心理や行動をもとに人間の生き方を考える。
	鏡	・恐怖体験の一つとして語られる、幽霊でも超常現象でもない、人の内面に潜む恐怖とは何かを読み解く。
	枕草子 〔歴史の窓〕	・当時の人々の生活感覚を反映した文章を読んで、古文に表れたものの見方・考え方の一端に触れる。
	万葉・古今・新古今	・調べや修辞技法に留意しながら、和歌の鑑賞のしかたを理解する。
	奥の細道	・俳諧紀行文における散文と句の関係を理解し、作品に表れた作者の思想や心情を捉える。
	唐詩の世界 漢詩のきまり	・表現や技法（押韻や対句）に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取る。 ・漢詩のきまりを理解する。